

# 芦安中学校（後期）自己評価書

平成25年1月21日

南アルプス市立芦安中学校

校長 興水 哲男

## 1 前期自己評価の経過

- (1) 後期教職員対象アンケート，生徒対象アンケート及び保護者アンケートの実施（12月）
- (2) アンケート結果の考察を基に職員会議にて改善方策の審議（1月11日）

## 2 学校評価の分析と改善方策

### (1) 教育目標

〔達成状況〕

○学校教育目標を活かした教育活動の展開，意識化については概ね良好であるが，「意欲的に学習し，最後までやり抜く生徒」「正しく判断し，自主的に行動できる生徒」については，前期同様に生徒の力として十分に達成しているまでに至っていない。

〔改善策〕

○今後とも学校教育目標を全教職員が意識し，その目標の達成に向けて，日々のすべての教育活動の中で組織的・継続的に取り組んでいき，PDCA サイクルを活かした教育活動の実施に努めたい。特に，「学習意欲の向上・学習習慣の確立」「生徒の自主性・自立性の育成」については，重要課題として取り組んでいく。

### (2) 学校運営

〔達成状況〕

○「校務分掌」については，職員数減の中でどの職員も多くの仕事を抱えており，すべてが適切に機能しているとは言い難く数値がやや低下している。

○校内研究については，「主体的に生き生きと学ぶ生徒の育成」をテーマに一人一授業に取り組むことができた。しかし，来年度に向けて英会話科や食育公開の研究のため，主テーマに沿った研究が十分でなかった状況もあった。

○「報告・連絡・相談」の状況は概ね良好で，生徒に関する情報交換も密度の濃いものとなっている。しかし，学校行事や生徒会行事での連絡不足も指摘されている。

〔改善策〕

○学校現場の職務内容を考えると分掌を平均化することは難しいが，学年体制で補える部分，職員全体でバックアップできる内容等，状況に応じて複数職員で対応できるような協働体制をさらに強めていかなければならない。来年度も職員数の増加は難しい状況ではあるが，校務分掌については適材適所かつ無理のない配分となるよう心がけていきたい。

○学力向上の重要な要素の一つが教職員の授業力の向上である。校内研究での理論研究や積極的に授業実践を今後も行っていく。

○職員室が、授業や生活における生徒の情報や指導方針を共有できる場として、今後も機能させていきたい。

### **(3) 学習指導**

〔達成状況〕

○学力向上は、本校の大きな課題の一つである。まなびの時や放課後補習を通して、基礎学力の定着を図ってきた。

○宿題や家庭学習については、前期に比べ生徒アンケートの評価が低下しており、やってくる生徒とやっこない生徒が固定化している。宿題や課題が未提出の場合「放課後残ってやっていく」「課題終了後に部活を行う」という指導を繰り返している。

○学習態度は、よくなってきているが、活気ある授業や学び合う授業については、生徒の実態にあった授業改善を行う必要がある。

〔改善策〕

○個に応じた指導法の工夫・改善に努めて、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図っていく。また、基礎学力の定着を図るために、まなびの時・放課後補習を充実していく。家庭における学習習慣を確立することは、生徒の学力向上に必要不可欠である。保護者や小学校と連携し家庭学習の習慣化を粘り強く指導していきたい。

○校内研究での授業実践や研修会への参加により、教師の授業力の向上を図っていく。

### **(4) 生徒指導**

〔達成状況〕

○学校生活については、教師・生徒・保護者のアンケートから「明るく楽しい」と感じている生徒や「仲のよい友だちが複数いる」という生徒の割合が多く、比較的安定した学校生活を過ごしている。しかし、「困った時に相談できる先生」「仲のよい友だちや相談できる友だち」がいない生徒や「相談できる先生」がいないと感じている保護者もいる。

○前期同様「生徒の言葉づかい」が教職員の課題として指摘されている。

〔改善策〕

○生徒指導の基盤となることは、生徒理解と信頼関係である。普段から生徒の話聞く姿勢を持ち、人間的な触れ合いを通して、信頼関係を築いていきたい。また、学年担任、教科担任、部活動の顧問等広い視野での情報交換を行い、生徒理解に努めていきたい。

○「言葉づかい」をはじめ生徒指導にあたっては、指導方針を共有し合い、家庭とも連携しながら全職員同じ歩調で対応していく。そして、指導すべきことは、その場で指導し職員への連絡・報告をしっかりと行うようにする。

## 〔5〕学校生活全般（行事・部活動・生徒会活動・・・）

〔達成状況〕

○白峰祭では、生徒の実態にあった構成で全校劇や全校登山の詩と写真の発表ができた。

○バドミントン部では、新体制になり目標を持って主体的に練習に取り組んでいる。また、外部指導者を招聘し技術の向上を図ってきた。意欲的な反面、部活動が中心となることで、学校生活における規律が疎かになることがある。（課題の未提出、服装の乱れ、言葉づかい等）練習時間（特に朝練習）については、生徒から満足していない声が複数あがっているが、生徒の体力、学習に向かう姿勢や課題の提出状況、教師の指導体制等から今後も検討していかなければならない。

○太鼓は、練習のときから一人ひとりが集中して取り組み、白峰祭では新曲を含めて2曲披露することができた。人数減少や指導する上級生が少ない中で、パート分けや曲の難易度（どの程度のレベルの曲を演奏するか）について、検討していかなければならない。

○合唱では、音楽会の取り組みを通して、表現力が向上し、少人数ながらそれぞれの学年の良さが伝わる演奏ができた。本番だけでなく、日々の合唱活動に集中して取り組めるようにしていきたい。

○生徒会など自治的活動に対して意欲的・主体的に取り組む点で課題が残る。

〔改善策〕

○生徒の「自主性・自立性」をいかに育てていくかが、本校の課題となっている。生徒数・教員数が減少する中で、一人ひとりの負担が多くなっている。その中で多くの活動を行わなければならないので、教師主導にならざるを得ない状況がある。生徒の自主性や創意工夫を発揮させたいときは、以下のことに留意していきたい。

- ・放課後の活動時間を確保していくこと
- ・生徒が決定する場面を取り入れていくこと
- ・みんなで仕事を分担し一人ひとりが責任を持って活動させること

○生徒数や教員数の減少の中で、部活動や学校行事・生徒会行事など、行事の見直しを含め、実態に合った活動内容を考えていく。

## 〔6〕家庭・地域との連携および小中の連携強化

〔達成状況〕

○学校だよりやホームページ等を通して、学校からの情報発信を定期的に行ってきたり、白峰祭や音楽会では地域に案内を出したり、開かれた学校づくりに努めてきた。（HPのアクセス数は1万1,000人を超えた。）

○強歩大会では多くの保護者や地域の方々（安協・消防団・警察等）の協力を得て、運営することができた。

○授業参観・学校開放日や学校行事等への参観の機会については、保護者の評価は高い。しかし、平日に行われた学校開放日や学年部会への参観者が少なかった。

○宿題や家庭学習の取り組みは、まだ十分とは言えない。学校での様子を家庭で話をする生徒は比較的多いが、あまり話を聞いてもらえない子や一人で家で過ごすことが多い子がいる実態がある。

○小中連携については、以下の活動を通して、それぞれの現状や課題を話し合ったり、交流を深めたりしながら9年間で子どもたちを育てるという意識を高めてきた。

- ・小中合同会議（2回）
- ・お互いの授業参観
- ・英会話科に向けての話し合い
- ・中学校教員による小学校への出前授業
- ・合同合唱練習及び発表
- ・中学校の音楽会への小学校の参加
- ・若葉給食、やきいも集会による交流
- ・小中合同地区別集会
- ・6年生の中学校への授業体験（予定）

#### 〔改善策〕

○今後も地域の人材の有効活用や地域行事への参加を通して、地域社会との交流や協力体制に努めていきたい。また、情報を積極的に発信し、学校の説明責任を果たし、地域・保護者と連携した学校づくりを進めていく。

○平日参観は、現状では保護者が集まりにくいので、休日参観等を検討してより多くの人が参観できるように考えていきたい。

○個々の生徒の課題（家庭学習、家での過ごし方等）については、保護者との連絡を密にとりながら、学習習慣の定着や健全な生活習慣の育成を図っていく。

○来年度からは英会話科の設置、小中合同 PTA の運営等、これまで以上に小中学校の連携が必要になる。今後も生徒・児童の交流や教師同士の交流を図り、相互の児童生徒理解、教科指導、生徒指導、学習規律、家庭学習等、9年間を見通した教育活動を進めていきたい。特に、定期的に行われる予定の小中連絡会では、より深く子どもたちの様子を伝え合い、小中での課題を共有化し、同じ意識を持って子どもたちの教育にあたっていくようにしたい。

## （7）その他

#### 〔来年度に向けて〕

○来年度は、重点的な取組の達成状況や課題が明らかになるように、学校評価の項目、内容を見直していきたい。

○来年度は英会話科の実践、食育公開が行われるので、全校で取り組む体制を今年度中に考えていく。

○職員体制が変わっても継続的な教育活動ができるように、分掌の引継ぎをしっかりと行う。そのために文書資料とデータの保存を次の担当がわかるようにしておく。